



園だより

令和6年6月1日
目黒区立第二上目黒保育園長

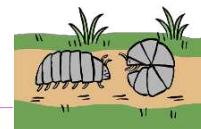
1・2歳児クラスと一緒に民舞『荒馬』を踊る活動をしていました。2歳児クラスが小さな馬を身につけて踊ったあと、1歳児クラスも手綱を握って踊ります。手にする道具は違っても「ラッセーラー」の掛け声は共通で、子どもたちから自然と発せられていました。荒馬の馬が跳ねる様子は、働き者の馬が大地を踏みしめることで農地を耕す勇壮な姿を表したものです。力強く踏む（跳ねる）ことによって田んぼの害虫を打ち払う意味もあるようです。子どもたちの前で保育士が床を踏みしめてみせながら「田んぼや畑にいる虫をこうやって追い払うんだよ」と説明しています。説明を聞く子どもたちに目を向けると、保育士の身振り手振りをジッと見つめたり、小さく「うん うん」と頷いているような子もいました。田んぼの風景も害虫も日頃の生活に馴染んだものではなく、イメージを持って聞いているかといえば、そうではないだろうと感じます。それでも、年齢に応じて分かりやすく伝えることを意識し、子どもたちの踊る楽しさが増すようにという思いで説明する保育士がいて、全てを理解出来なくても、その中からわかる言葉を拾いながら荒馬について一つ、また一つ知り、踊る喜びに替えていく子どもたちの姿がありました。梅雨時期はピロティやホールでの活動の機会も増え、荒馬たちが元気に跳ね回る賑やかな園内になりそうです。

クラス懇談会では、ご家庭でのお子さんの様子や親子の微笑ましいエピソードに触れることが出来ました。深い愛情を持って成長を見守る保護者の皆様がいることで、私たち職員は安心してお子さんをお預かりすることが出来ています。改めて感謝の気持ちをお伝えするとともに、より一層保育の充実を図ることで、一人ひとりの成長に手を差し伸べていきます。



中旬

歯科検診（全園児）
耳鼻科検診（3・4・5歳児クラス）
内科検診（全園児）
眼科検診（全園児）
身体計測・避難訓練



ひしひしと伝わってきます『おおきくなりた〜い』の思い

～看護師～

毎月、身体計測を行っています。子どもたちはとても「大きく」なりたい様子で、計測すると「何キロ」「おおきくなった」と聞いてきます。体調等で体重が一時的に減ってしまう子もいるのですが、0,1 cmでも0,1 kgでも増えていれば「大きくなったよ」と伝えると大喜びするのです。昼食時やおやつ時に保育室に行くと「見て 見て、食べたよ」「ピッカリン」と教えてくれたり、年長児は「苦手だけど頑張って食べたよ」等と話してくれます。美味しく食べられることはそれだけで栄養となり、元気の源です。子どもたちには美味しく食べて、毎日元気に楽しく遊んでほしいと願っています。

6月は様々な検診があります。検診を通じて自分の身体への関心を広げてもらいたいと思っています。



さくら組（3歳児クラス）

「てんてんちゃんいるかな」「ちょうちょのしろちゃんにも会いたいな」と絵本に登場するキャラクターの名前を口にしながら、期待を持って散歩に出掛けました。公園で蝶々が飛んでいると「しろちゃん、まてまて」と全力で追いかけます。てんとうむしを腕に這わせながら「てんてんちゃん、おてての上を歩いている」と嬉しそうです。「葉っぱで遊んでいるのかな」「お昼寝しているのかも」と想像が膨らむやり取りで盛り上がっています。

自然に触れる活動を通して芽生える興味や関心に共感し、一緒に探索を楽しんでいきます。



すみれ組（4歳児クラス）

ペットボトルに水を入れて児童遊園に持っていくと「ここに入れて」と子どもたちがバケツを持ってやって来ます。重くなったバケツの水がこぼれないように砂場まで運び、掘った穴に流しますが、流しても流しても水がどんどん吸い込まれていく様子に驚いたりしています。泥が程良い固さになると、手にいっぱい乗せて握り「お団子はいかがですか」とお店屋さんが始まりました。思うように握れず団子にならなくて困っている子には、保育士が握り方を知らせると徐々にコツを掴み、形になっていきます。

“じっくり”でも“ダイナミック”でも、どんな遊び方であっても五感を使って楽しめる環境を整え、子どもたちの楽しさに共感することで“明日もやりたい”と思えるほど遊び込める力を育てていきます。

思いつきり戸外遊び

感じて・楽しんで
そして 駆け抜けて



ひまわり組（5歳児クラス）

散歩先で色々な鬼ごっこを楽しんでいます。鬼に捕まったら仲間と向かい合って手をつなぎ「チーン」と言うと復活出来るというルールのある『電子レンジ鬼』をしました。誰が鬼になるかは子どもたちが話し合いで決めています。ある日のこと、なかなか鬼が決まらず「遊ぶ時間が無くなっちゃう」「誰もやりたくない」という声の中「交代でやろうよ」と一人の子が提案しました。すると「わかった」「それならいいよ」と話が決まり、鬼ごっこが始まるという場面がありました。話し合いが成立するまでには保育士の援助が必要な時も多いですが、自分の思いを伝え、相手の思いも受け止めながら、折り合いをつけられるようになっています。

話し合いに時間がかかっても保育士は見守る姿勢を基本としながら、必要に応じてヒントを出したり、周りの状況に目を向けられるようなきっかけを作ったりしています。子どもたちが決めたことを出来る限り尊重し、仲間と一緒に答えを見つける経験を積み重ねられるようにしていきます。

